

(Jan 22 2021)

# PACガーディアンズ定例勉強会 資料

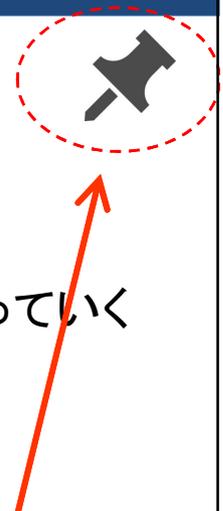
筑波大学人間系  
特定非営利活動法人PACガーディアンズ  
一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク(SDM-Japan)  
名川 勝

nagawa.masaru.gf@u.tsukuba.ac.jp



## 本日の項目

- いわゆる「意思決定支援」の誤認“あるある”
- 日常生活の意思決定支援を大切にしよう
- 「決定」は私たちもあまり出来ていない
- wish(ウィッシュ、希望、望み)を育む支援をやっていく
- 「意思決定」の支援の層について
- 「リスクの捉え直し」を考えていこう



今日は、押しピンマークのスライドを中心に話をしていきます。

## 意思決定支援に関する誤認、あるいは注意点

- a. 意思決定支援をやると意思決定できるという誤認。
- b. 意思決定支援をやったら意思決定してもらわないといけないという誤認。
- c. 意思決定支援のゴールが意思決定にあるという誤認。
- d. 「意思決定支援しなくて良いときは支援しない」があることの確認。

3

## 「支援つき意思決定」と「代理代行決定」を区別する

- 支援つき意思決定 = supported decision making … (1)  
(サポート：支援する)  
→他の人の支援を受けながら、本人が意思決定すること。
- 代理代行決定 = substitute decision making … (2)  
(サブスティテュート：とって代わる、代わりにやる)  
→本人に成り代わって他の人が意思決定をすること。
- (1) ができないときに、(2) を考える  
(意思決定支援から見ると、成年後見は“最後の手段”)

4

## 『意思決定支援』の混乱

### いわゆる『意思決定支援』

#### ① 支援付き意思決定

→本人意思を聴き取る、(本来の)意思決定支援

#### ② 代理代行決定

→最善の利益に基づく

5

## 3つの考え方(基本理念・原則)

- Best Interest (最善の利益)
  - 代理代行決定に関する考え方
- Best Interpretation of Will and Preference (意思と選好の最善の解釈)
  - 代理代行決定～支援付き意思決定に関する考え方
- Expressed Wish (表出された意思・希望)
  - 心からの意思(素からの意思)
  - 支援付き意思決定に関する考え方

6

	expressed wish	best interpretation of will and preference	(objective) best interest
和訳(案)	表出された意思、心からの希望（素からの意思）	意思と選好の最善の解釈	（客観的な）最善の利益
説明	<p>支援者の傾聴によって表出された本人の内なる意思・希望であり、本人から意図的に表出される意思決定</p> <p>【その人が何を言っているか、何を本当に願っているか、何がその人の生きる力になっているか】</p> <p>【What's important <b>TO ME</b>】</p>	<p>本人から意図的に表出されたメッセージ（＝意思）と、意図的ではないが本人の好き・嫌いを明示する諸情報（＝選好）に基づき他者が解釈する、本人の意思決定</p> <p>【その人のメッセージが何であると解釈できるか】</p> <p>【What do you think is important <b>TO HIM/HER</b>】</p>	<p>特に客観的な本人利益を重視して他者が判断する最善の利益</p> <p>【その人のために何が利益か、大局的・一般的に考えたら何がその人にとって良いか】</p> <p>【What's important <b>FOR HIM/HER</b>】</p>

### 3つの原則の相違

expressed wish	best interpretation of will and preference	(objective) best interest
表出された意思、心からの希望(素からの意思)	意思と選好の最善の解釈	(客観的な)最善の利益
本人から出る意思・情報による		周囲からの意見による
本人を優越しない		本人を優越する
意図して表出	意図して／せず表出	
解釈を許さない	解釈する	
〔 支援付き意思決定 〕		〔 代理代行決定 〕

## 優先順位による並べ替え

- Expressed Wish (表出された意思・希望)
- ↓
- Best Interpretation of Will and Preference (意思と選好の最善の解釈)
- ↓
- Best Interest (最善の利益)

9

## 意思決定の支援の層

手順が第三者に開かれ、  
情報が公に利用される

代理代行決定、Best Interests Meeting

### 個々の意思決定 場面に対する支援

- 日常の意思決定支援(意思疎通支援、ときに意思形成支援、環境調整)
- 危急時の意思決定支援/レスキュー・モデル
- 困難な人の支援/コミュニケーションの工夫
- 「意思と選好」の活用

### 意思決定を育てる / 支援を育てる

- 内発的動機づけ/自己効力感の形成・向上/エンパワメント・モデル
- エクスプレス・ウィッシュ/小さくても自分自身の願い
- 支援のチーム形成/チームも育つ/ストレングス・モデルとの関連
- 決定支援に対する感度を高める

### 環境の整備

- 話しやすい場所、時間、相手、方法など、わかりやすい話しかた、書きかた
- 意思決定支援に関する考え方、態度やルール共有/保護からの踏み出し、「リスクの尊厳」
- 研修の実施/協議の場の形成
- 選好情報の収集・蓄積・共有・更新

### 豊かな経験

- 多くの体験→選択肢を得る体験
- 決定と表出の良い経験
- 内発的動機づけ・自己効力感への配慮

(名川(2016)を改編)

決定の実現とその支援

10

## 日常生活における意思決定とは

(作業的定義)



- 必ずしも法律行為に至らない、
  - 必ずしも重大な医療上の判断を求めない、
  - 時間に制限されない、
- 意思の表明・表出および決定である。

日常生活として基本的な生活習慣や活動参加に係る行為、すなわち食事、衣服の選択、外出、排泄、整容、入浴等基本習慣であるとか、あるいは余暇活動、障害福祉サービスの利用等であって、事実行為の要素が強い。(3つのガイドラインから抜粋、編集)

11

## 法律や医療上の重大な意思決定と日常生活における意思決定の違い



- 今もしくは近々に（どうしても）決めなければならないか
- 決定者の確定、責任の所在
- 決定帰結の活用
- 継続性・修正可能性（形成性）
- 本人（被後見人等）の意思能力判定の適用基準
- 代理代行による決定までを必要とするか否か

中動態的な考えとは  
相容れない世界

12

## レスキューモデルとエンパワメントモデル



- レスキューモデル
  - 【状況】解決の要請程度が高い、緊急性がある、時間的に限りがある（切迫性がある）、ような場合
  - 【目標設定】本人の抱える課題や不適切な生活を改善し、相対的に安定した状態に至らせる。本人意思の確認や「最善の解釈」に必要な情報の収集に努力するが、必ずしも十分にはできない。
  - 【支援のあり方】結果、最善の利益を尊重もしくは配慮した、代理代行決定に至ることも多い。
  - 【本人以外から始まる意思決定】

13

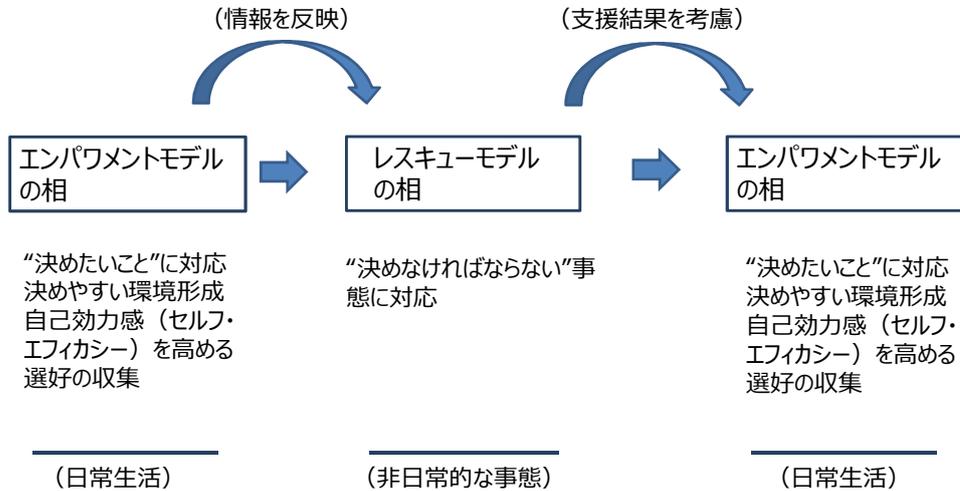
## レスキューモデルとエンパワメントモデル



- エンパワメントモデル
  - 【状況】差し迫った解決要請ではなく、本人の意思決定がより高められることに目標がある。時間的に差し迫っていない。
  - 【目標設定】本人意思をより良く表出できるようにし、意思決定に関する自己効力感（セルフ・エフィカシー）を高める。自分で決めるプロセスを拡大しながら、より長期的な目標につなげていく。
  - 【支援のあり方】「表出された意思」や「意思と選好に基づく最善の解釈」を適用する。重要なのは、自己選択と管理（チョイス&コントロール）が高まるようにすること。意思決定支援の実施よりむしろ、意思決定支援の関わりかたを育てる（本人も支援者も育つ）。
  - 【本人から始まる意思決定】

14

## 日常生活における意思決定の支援との接続



15

**意思決定支援事態の多くは、しなければならぬ他者もしくは周囲からの始発による解決要請事態。**

→意思決定支援と言っている場面の多くは、自分から考えたり決めたりしないことじゃなくて、決めろと(決めてくださいと)言われて決めることばかりではないでしょうか？

【例えば、急に「どこに住みたい？」と聞かれても、私たちが答えられない】

そのような要請事態は、自分の用意したわけではない環境提供や情報整理がなされ、心理的には認識枠組みが本人にとって不慣れである。そのため理解や判断、決定はいっそう困難。

16

## 私たちが「決定」できているとは限らない、のに...

The screenshot displays a Japanese e-commerce interface. At the top, there are three book covers: '選択の科学' (The Art of Choosing) by シーナ・アイエンガー, '予想どおりに不合理' (Irrational as Expected) by ダン・アリエリー, and '失われた『態』を求めて' (Searching for the Lost 'State'). To the right, a product listing for '中動態の世界 意志と責任の考古学' (The World of Middle Voice: Archaeology of Will and Responsibility) by 國分功一郎 is shown with a price of ¥2,200 and 60 reviews. Below the books are two video thumbnails from TED. The left one features シーナ・アイエンガー speaking at a podium, titled '選択術' (The Art of Choosing). The right one features Dan Ariely speaking, titled 'Are we in control of our own decisions?'.

## 意思決定の支援にあたっての基本的な態度

- 「あなたを手伝いたい」「あなたを助けてあげたい」ではなく、  
「あなたのことをもっと知りたい」
- 日々の気付きの積み重ね→時間がかかる
- 職場での理念と手続きの共有

# 何が意思決定の支援を阻んでいるか？

## 1. 意思決定者（本人）の意思・希望がわからない

a. 意思・希望が曖昧、未形成

本人の意思を受止める手立てがない

b. 意思・希望が不安定

意思がない（不明瞭）と判断し代理代行決定に移るのが早い

## 2. 意思決定者の意思決定能力があるかどうかわからない

## 3. 意思決定に対する葛藤（コンフリクト）が生じている

a. 本人と周囲の葛藤

本人の意思・希望に応じるのは困難と感じて支援者がその先を断つ

① 意思決定者の希望がわがまま、実現可能性が低い

② 意思決定者の希望は危険だ

b. 周囲どうしの葛藤

そもそも課題に行きついていない空中戦

(4. そんなん忙しくてやってられん、現場では難しくてできん)

別の問題

いずれにせよ支援者の課題 ↓ 解きほぐし方がわからない

支援における権力性、誘導性、干渉性に無自覚

最善の利益 (Best Interest) / ケア職としての義務 (Duty of care) / 労働安全衛生 (OHS)

# 意思決定支援の課題と、その対応方略

	見つける、整理する、育てる手立て	暮らしや地域の中で広げ育てる手立て
<b>1. 意思決定者（本人）の意思・希望がわからない</b>	南豪州モデル(SA-SDM/PFT)による傾聴と対話のスキル	南豪州モデル(SA-SDM/PFT)によるミーティング
a. 意思・希望が曖昧、未形成	選好の記録と分析によるWatson, Scopeの方法	Scope の 10ステップ
b. 意思・希望が不安定	ストレングスモデル (ラップ&ゴスチャ)	
	Talking Mats	
<b>2. 意思決定者の意思決定能力があるかどうかわからない</b>	意思決定能力の判断→代理代行決定へ	
<b>3. 意思決定に対する葛藤（コンフリクト）が生じている</b>	マイクロボード (Microboards) あるいはサークルオブサポート (Circle of supports)	
a. 本人と周囲の葛藤	前向きで建設的なリスク分析と対応 (Positive Risk Taking) による解きほぐし	
① 意思決定者の希望がわがまま、実現可能性が低い		
② 意思決定者の希望は危険だ		
b. 周囲どうしの葛藤	本人の意思や望みは何かを共に知る手順をそろえる (定義の共通化、選好の記録と分析、ポジティブリスク分析ほかにより、プロセスの合意を図る)	

選好を重視した情報の収集・共有・蓄積・更新 Scope Australiaの方法

「意思決定支援を使いながら生活する人々  
“微かに聞こえる声を聴く”」

People leading lives they prefer  
through supported decision making  
“Listening to those rarely heard”

Scope (Watson & Joseph) 2011



(写真は日本の方にご許可をいただいて掲載しています)



非意図的なメッセージ (情報) を含む

平30年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)分担研究報告書「意思決定支援ガイドラインを活用した研修プログラム及び研修テキストの作成と、研修前後の受講者の意思決定支援に関する認識の変化の検証に関する研究(研究分担者曾根直樹)より抜粋、改編



意思決定支援を使いながら生活する人々  
“微かに聞こえる声を聴く”

People leading lives they prefer through supported decision making

“Listening to those rarely heard”

A workshop package developed by Scope

Funding from the 2009 Capacity Building for People with a Disability: Information, Tools and Resources grant (Disability Services, Victorian Department of Human Services)

unintentional message(information)を含む



Scope (Watson & Joseph) 2011  
ワークブックの表紙

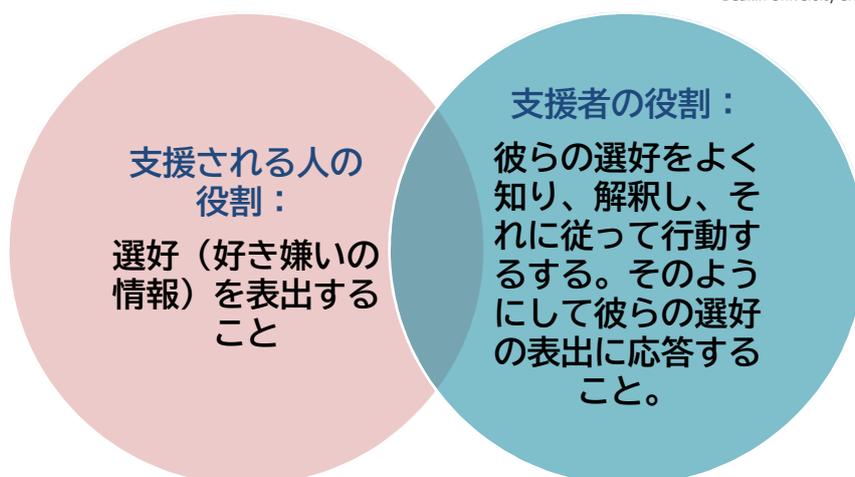
## 意思と選好（プレファレンス）情報の収集・共有・蓄積・更新

- みんなで選好の**収集**を続ける。非意図的なメッセージや行動もよく観察し、発生や繰り返しの頻度、反応などを勘案。
- 得られた情報を**共有**、協議して、独り善がりの判断を回避する。また多くの支援者がその選好に気づけるようにし、感度を高める。
- 絶えず**蓄積**し、整理する。
- 選好は変わり続けるので、以前と異なることが共有されたら**更新**する。

23

## Watsonによる支援枠組みの説明

Deakin University CRICOS Provider Code: 00113B

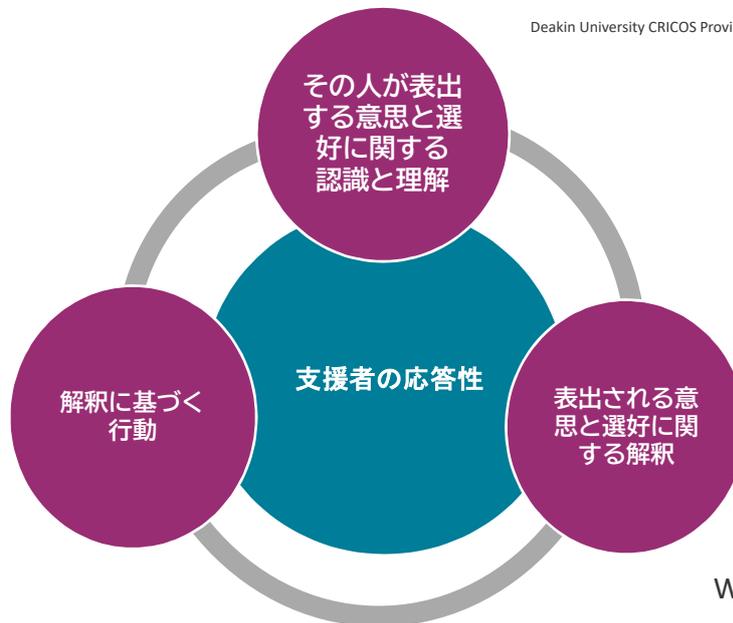


Characterising decision making support for people who communicate informally (Watson, 2016)

24

# Watsonによる支援枠組みの説明

Deakin University CRICOS Provider Code: 00113B



Watson, 2016

25

# Dignity of Risk (リスクの尊厳)



26

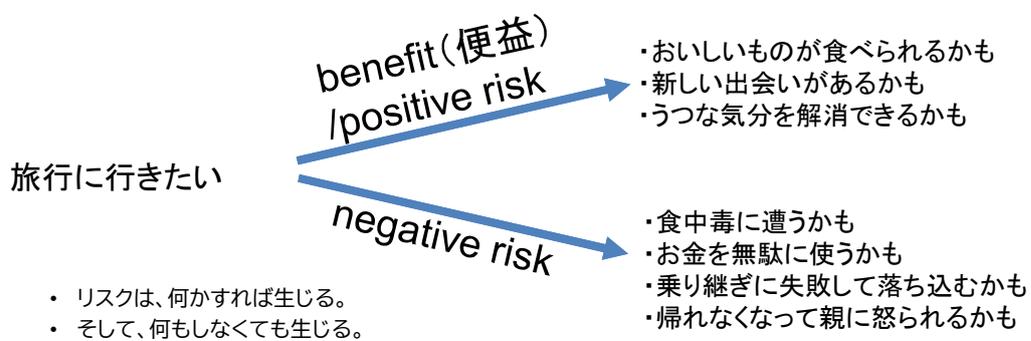


27

## リスクとは

- リスク(risk) : 目的に対する不確かさの影響

※ JIS Q 31000:2010 (ISO 31000:2009)

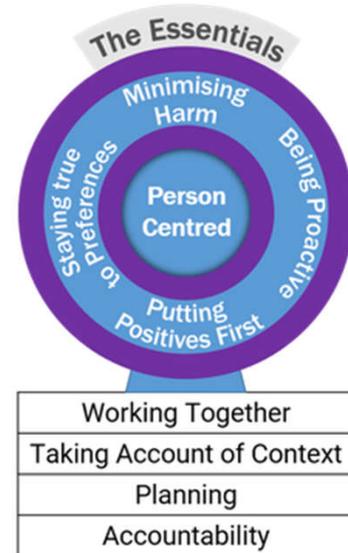


28

## positive risk taking (risk enablement)の4要素

- Putting Positive First : ポジティブリスクを把握し、これに応じた働きかけをする
- Being Proactive : 事前的に(創造的に)対応する
- Staying True to Preferences : 本人の選好に誠実である／遊離しない  
※『真に受ける』(島村、2015)
- Minimising Harm : 実践により生じるであろう弊害(harm)を最小化する

Bigby, Douglas and Vassallo (2018)



29

## 書籍紹介

名川勝・水島俊彦・菊本圭一(編著)(中央法規、2019年12月)

### 「事例で学ぶ 福祉専門職のための 意思決定支援ガイドブック」

- 序章 「意思決定支援」の考え方  
 1章 日常生活と意思決定支援  
 2章 国内の意思決定支援に関する動向  
 3章 意思決定支援の実践に向けたポイントプロセスを意識するー  
 4章 支援付き意思決定に基づくチーム支援のあり方  
 5章 意思決定支援における相談支援専門員や介護支援専門員の役割  
 6章 事例から考える意思決定支援の実際  
 (7事例)

30

